

会 議 録

1 会議名

令和5年度 第4回春日区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 自主的審議事項（公開）

- ・各分科会における審議の状況について

3 開催日時

令和5年7月18日（火）午後6時30分から午後7時57分まで

4 開催場所

上越市市民プラザ 第2会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：市川 優、太田一巳（会長）、白濱昭博、谷 健一、藤田晴子、本多俊雄、丸山佳子、山田 孝、吉田 実（副会長）、吉田義昭、渡部忠行（欠席6名）
- ・事務局：中部まちづくりセンター 小林所長、井守副所長、渡邊係長、山崎主事

8 発言の内容（要旨）

【渡邊係長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【太田会長】

- ・挨拶

【渡邊係長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【太田会長】

- ・会議録の確認：本多委員に依頼

次第 3 議題「(1) 自主的審議事項」の「各分科会における審議の状況について」に入る。各分科会から説明する。

○観光分科会

【吉田副会長】

「春日山城跡を中心にした観光振興に資する事業の意見書」ということで、項目がいくつかある。前文は 3 期目で提出した意見書のものを引用している。観光分科会の今までの経緯を述べながら、意見書を提出する予定である。今日は資料として配布していないが、内容が整理できたら皆さんに配布したい。

項目(1) 春日山周辺の道路と駐車場等のインフラ整備

(2) 監物堀や史跡保存エリアを活用したフラワーパーク構想

(3) 春日山周辺ににぎわいを招く楽市楽座の構想

(4) その他

- ・春日山に関連したお土産の開発
- ・埋蔵文化財センターの観光ビジターセンター化
- ・芸術の場づくり
- ・越後上越上杉おもてなし武将隊と一義会によるおもてなしの場づくり
- ・高齢者向けに本丸までのモノレールの設置

これらを分科会や地域協議会を始め、関係団体、市の関係部署と調整しながら仕上げていきたい。それぞれ 1 件ずつに分けて意見書を出したいと思っている。

(1)について、提案が 2 つある。1 つは愛宕谷公園の有効活用。公園入口に看板はあるものの、周辺に何があるかわからないので、大きなイラスト入りの案内看板の設置について提案している。愛宕谷公園から御屋敷に上がる道の入口と、春日山神社の境内の上がったところの古道にも小さな看板はあるが、こちらも大きな看板に替えてはどうかと提案している。愛宕谷公園自体、あまり利用されておらず、古道も含め有効活用していかなければならない。春日山神社の下にある駐車場の活用についても提案している。

2 つ目は大手道公園の利用が少なく、看板も分かりにくいので、大きな案内看板に変更する。公園までの道が農道で整備が必要だ。トイレや水飲み場もない。道幅が狭いので、整備すれば上正善寺へ行けるし、大手道も車で行ける。循環ルートができれば

ば便利だと思う。

(2)については、監物堀を全面的に復元してはどうかという提案と、史跡の保存のため公有地化した埋蔵文化財センターの裏側が、ほとんど利用されておらず、一生懸命草刈りするだけという状況なので、これを役立てようという提案である。監物堀を復元してフラワーパークにしていく。監物堀だけでなく、春日山周辺には愛宕谷公園の睡蓮や大手池の紫陽花があり、全体のフラワーパーク化を提案していければと思っている。高田城址公園と連携したフラワーパークなども考えている。

まとまったものから提案していく予定だが、地域協議会で内容を決めていくとしても、町内会長や関係団体との調整を今後どうするか、まだ見えていない。今日も分科会があるが、内容を煮詰め、事務局に渡して、必要に応じて関係部署と調整し、進めていければと思っている。

○安全・安心分科会

【本多委員】

5月に防災士会の春日支部が設立した後、次の動きとして、町内の避難場所のマップや危険箇所の確認という意見が出た。町内会長連絡協議会にお願いすることも多々あるかと思うが、今日の分科会ではっきりした方向性を出したいと思う。

○福祉分科会

【吉田義昭委員】

報告の前に、観光分科会の意見書の作成について質問したい。これまでの間、どのような経過で意見書案を文面にまとめているのか。地域協議会の経過報告ではその過程が見えないので教えていただきたい。

【小林所長】

吉田副会長は分科会の中で話し合ったことを意見書としてまとめられたと思う。今、意見書として見せていただいたものがそのまま太田会長名で市長まで上がることはない。吉田副会長が作られた原案について、当然のことながら委員の皆さんから審議していただき、その後、市長に提出することになる。

福祉分科会で意見書の提出という方法を取るのであれば、同じような形で原案を作成し、分科会と協議会で議論して、提出という流れになる。ただし、意見書の提出は、自主的審議の出口の一つでしかなく、必ずしも意見書を提出する必要はない。地域の活動団体を巻き込んで、実際に行動するのもよいと思うし、そのために地域独自の予

算の補助制度がある。以上が一般的な自主的審議の進め方である。

【吉田義昭委員】

いきいき春日野ふれあいコンサートの効果について、7月11日に実行委員会と意見交換を行った。前はコンサートが周知できていない雰囲気だったが、今回は委員の皆さんの努力により、来場者も増え、新聞やテレビ放送等で取り上げられ、認知度も上がったものと考えている。私は、この取組を春日地区町内会長連絡協議会の一つの特別部会として組み入れてもらえる可能性があるのか、町内会長連絡協議会の会長と非公式の話し合いをさせていただいた。

【太田会長】

各分科会のリーダーから、意見書の作成や今後の進め方など、進捗状況について報告があった。これまで委員全員がなかなか発言できなかったので、今回は皆さんから一言ずつ感想や意見をいただくこととしたい。3分科会でも、全体会のことでもよいので、お話しいただきたい。

【市川委員】

各分科会の進捗状況が非常によくわかった。安心・安全分科会では支部を結成し、私が支部長になった。最初の仕事として、春日謙信交流館において上越市防災士会と共催で研修会を開催し、40人近くの出席があった。各町内会長から、非常によかったと感想をいただいた。今回は、結成して間もないこともあり、防災士会から全面的にバックアップしていただいたが、支部を結成してよかったと感じている。今後の課題については、地域協議会委員の皆さんと話をしていけたらと思っている。

今ほど観光分科会の吉田副会長からいろいろな話があった。研修も2回ほど行き、私は春日山城跡保存整備促進協議会に関わっているが、文化行政課から、春日山は手をかけては駄目だよという話があり、建物も造れない、何も構えないというのが現状である。また、越後まほろば倶楽部というNPO法人が設立され、春日山周辺で様々な活動を予定されているようだ。いろいろな団体が絡んでおり、調整は簡単にはいかないと考えている。ただ、非常によい計画なので、町内会長連絡協議会との連絡等で橋渡しになるなど、何らかの形で活動していけたらと思う。

ふれあいコンサートについては、今後も継続していけたらと考えている。実行委員長が谷委員に交代した。責任重大だと思うが、協力していきたい。

【白濱委員】

各分科会のリーダーの皆さんには、この報告までにお骨折りをいただき、心から敬意を表したい。どの分科会でも、春日地区の町内会長連絡協議会との連携が非常に大事だと感じている。実りある成果を出す、一步進むという場合においては連携が必要である。私としても残された任期の中で、安全・安心分科会で本多リーダーを中心に頑張っていきたいと考えている。

【谷委員】

先日のふれあいコンサートでは、皆さんにお世話になり感謝申し上げます。このコンサートを始めたのは、町内会長から春日中学校との交流がないので何か繋いでほしいと話があったのがきっかけである。以降、春日中学校や上越教育大学等との交流が生まれ、子どもから大人までつながり、このコンサートも今年で17回目となった。皆さんの協力があってやってこられた。今後も継続していくため、昨年、実行委員会を立ち上げた。大学生、町内会から入っていただき、5名の実行委員が中心となっている。今年は、ほたる保育園の園児から初めて出演していただいた。非常に好評で、活気があった。この地域協議会からもより良い事業となるよう提案をいただき、力を貸して欲しい。春日区にもっと広がるようなコンサートにしたいと思う。

【藤田委員】

7月9日にくびき希望館で行われた、上越市・妙高市・糸魚川市の合同コンサートを見てきた。地域にこのような取組をする人たちがいることがわかったし、いきいき春日野ふれあいコンサートをどう育てていけばよいのかとも思った。ふれあいコンサートは、福祉の観点からも、大事に育てていければと思う。この地域でしっかりとした土台をつくり、発信できる、子どもから高齢者までつながっているという、そんな雰囲気を作り出せたら素晴らしいと思う。それが福祉なのだろうと思う。もう少し目を向けて、みんなで育てていける春日地区になっていったら素晴らしいと思う。

春日地区は上越市の中心部にある。私の思い上がりかもしれないが、ここが活性化すれば、きっと上越市全体がよい形になっていくのではないかと、そんなところまで自分で思いを高めている。皆で頑張れる、そのような力を育て合えばよいのではないかと、という気持ちである。

【本多委員】

防災士会春日支部の設立に当たり、事務局からもご協力いただき、無事設立することができた。地域協議会だけでは何もできない。春日地区には様々な会がある。特に

今回お世話になった町内会長連絡協議会とは、協力しながら、提案させてもらいながら、自分たちの方針を出して進めていけばよいのではないかと考えている。それと今の観光部会だが、地元と連携してやっていただければよいと思う。取組を進める場合に、地区に委員会などの団体があれば、そこと自分たちが連携するとスムーズに行くというのが私の考えである。

【丸山委員】

岩木町内会では、輪投げ、ボッチャ等の手軽な運動などを通じて高齢者同士の親睦を図っている。一方で、高齢のボランティアの方により、市内で一番マナーがなっていないとされる町内のごみの集積所をきれいにしてもらっているが、体力的に厳しいというような話を聞き、残念に思っている。私は春日謙信交流館で大勢の仲間とコーラスを楽しんでいて、声を出すことは本当によいことだと思う。また、岩木のクリーン活動で高速道路下の掃除をしようと思っており、自分でできることは率先してやっていきたいと思っている。

【山田委員】

春日地区にはやるべきことがたくさんある。その中の何か一つでも実行できることがあれば、協力したいと思っている。どこから手をつけたらよいかわからないが、少しずつ前に進めていきたいと思っている。

【吉田義昭委員】

「あらゆる世代が豊かに暮らせる春日区」という目標に向かって、まず町内会が元気でなければ前に進まないという考えのもと、19町内会の実態調査を行った。少子高齢化という課題に対し、今回のふれあいコンサートは、そういう意味で保育園児や小学生から大人までの全部がつながった形、学校と地域を音楽で結ぶというようなコンセプトだったといえる。今後、これをどう総括していけばよいのかと葛藤しており、地域協議会委員である自分に課された問題との認識で取り組んでいきたい。委員の皆さんの考えはいろいろあるが、こういう議論をもう少し前からできたらよかったと思う。なかなか皆さんの意見を聞く機会がなかった。お互いの気心を知って、このような話し合いを持たないと前に進まないと思う。

【渡部委員】

意見書の提出後、どうなるのか心配だ。事務局のスケジュール感はどうなっているのか。来年も再来年もこのメンバーで協議するなら話は別だが、任期の区切りがある

ではないか。

福祉分科会は、ふれあいコンサートを大きな会場で行っただけだ。専門部会というような話があったが、早いところケリをつけて、次の展開に進むべきだ。民生委員のなり手がいないとか、独居の高齢者が多いとか、趣味講座の会場が春日山荘から市民いこいの家に移ることで、受講をやめざるを得ない人がいること、作品の展示場所など、話し合うことがたくさんあるではないか。

安心・安全分科会は支部を作った後は支部任せでよいと思うが、線状降水帯とかいろいろな心配事もあるので、ほかのところに目を向けないといけないと思う。

8月頃に来年度の予算組みをするらしいので、地域協議会で意見書を出しても、もう間に合わない。我々は何をすべきなのかと思う。

【吉田副会長】

昨年度から地域活動支援事業の審査をする必要がなくなり、自主的審議のウエイトが大きくなったので、集中して審議をすることができたと思う。観光分科会は、現地視察として春日山へ2回、マイクロバスで長野方面にも行けた。視察を通じて新たな発見もあり、そのことも先ほど説明した提案に盛り込んでいる。先週も分科会のメンバーに集まってもらい、この報告に至っている。8月を目途に意見書を提出したいが、町内会長連絡協議会との日程調整が難しいので、見切り発車も少し考えている。それはまた事務局と調整しながら進めていきたい。

福祉分科会はふれあいコンサートに取り組みされたが、他の地域でも小中学校に動員をかけて盛り上げている。ふれあいコンサートも各世代にわたった交流事業であれば素晴らしいと思う。春日区には、「春日山荘コーラス教室」や「さわらび」というコーラスの団体があるし、立派な大人の歌い手もいる。臨時で大人のサークルを作り、子どもたちと一緒に歌うのもよいと思う。参考にしていればと思う。

【太田会長】

会長という立場ではなく、一委員としてお話をさせていただく。

まず観光分科会。やはり課題が余りにも大きすぎて、解決に何か行動を起こすのは難しいということで、意見書の作成に向かっている。通年観光をテーマに市も頑張っているんで、この意見書を参考としてもらえればよいと思う。全体会で意見書をまとめ、年内ぐらいに市へ提出し、年度内に返答いただければよいと思う。

安心・安全分科会については、防災士会春日支部が設置された。これで終わりとする

るのではなく、町内会の防災訓練に防災士が参加するなど、何かまた地域との連携ができればと思う。春日小学校ではコロナ前まで、子どもたちが水消火器を使って防災訓練を行い、非常食を食べる「防災キャンプ」という行事をやっていた。PTAとも連携しながら、防災士の方たちも一緒になって、また地域の方にも防災に関心を持ってもらうなど、何か連携できればよいと思う。

最後にふれあいコンサート。本当に17回続けてこられたのは、いきいき春日野を始め準備されてきた方々の思いがあつてのことだと思う。子どもたちにはいろいろ体験をさせたいのに教えてくれる先生がいない、教員の働き方改革で休日の部活動の指導もできないなど、教育環境が変わった。先生方も、協力したくてもできないという状況なので、準備に苦労されたと思う。その中であつて、実行委員会を組織できたのはすごく大きな成果といえる。この実行委員会に学生や若い人たち、例えば中学生をメンバーに入れてもよいと思う。町内会にお願いするのもよいが、町内会以外の違った形で組織化していくと、もっとよいものになっていくと思う。

これまでは、地域活動支援事業の審査・採択が地域協議会の一番の活動だった。皆で地域のことを考え、喧々諤々としていたものの、自分たちで何かできているわけでもなく、力の無さを感じていた。今は、3つの分科会でそれぞれの課題や目標に向かって進んでいる。結果がうまく出せていない部分はあるが、分科会のメンバーだけでなく、他の委員の知恵を借りたり、意見をいただいたりしながら、何か一つでも前に一歩進めるような会にしていければよいと思う。

17名の委員が、この春日区を何とかしたい、少しでも元気にしたい、安全・安心なまちにしたいと考える場が作られているだけでも、また一つ進歩していると思う。3つの分科会で結果を出すのはなかなか難しいと思うが、意見書の提出や町内会との連携だけでも成果といえると思う。任期の終わり迎えたときに、4年間地域協議会委員をやっていてよかったと皆で言えるよう、もう何回かの会議の中で進めていければと思う。

以上で次第3 議題「(1) 自主的審議事項」の「各分科会における審議の状況について」を終了する。

次に、次第4「その他」の「(1) 次回開催日の確認」に入る。事務局から説明を求める。

【渡邊係長】

- ・次回の協議会について説明

— 日程調整 —

- ・次回の地域協議会：8月29日（火）午後6時30分から 市民プラザ（予定）
- ・内容：（自主的審議事項）各分科会における審議の状況について

【太田会長】

- ・町内会長連絡協議会との情報交換会についての説明

以上で次第4「その他」の「(1) 次回開催日の確認」を終了する。

次に次第4「その他」の「(2) その他」に入る。

その他、何かあるか。

（発言なし）

- ・会議の閉会を宣言

※閉会后、必要な分科会のみ、分科会を開催（流れ解散）

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。